

2022年度 研究センター事業報告書

研究センター名	コリア研究センター
---------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなわずにできるだけわかりやすく記述してください。

はじめに

2005年度に発足した立命館大学コリア研究センターは、2018年度からは激化する東アジアの葛藤と理解のジレンマを乗り越えるために、葛藤・対立のモメントを最小化しながら、交流と相互理解をいっそう促進する道筋を探り、社会的に方向性を示すことのできる政策志向の研究拠点として活発に学術活動を続けている。

1. 学術研究事業**(1) 国際学術交流企画**

①立命館大学・吉林大学・東国大学 日中韓3大学シンポジウム「ウクライナ戦争発生後における朝鮮半島情勢について考察する」（2022年11月4日）

東国大学校北韓学研究所、吉林大学東北アジア研究院と本研究センターの3機関の主催で東国大学校を主会場としオンラインを併用するハイブリッド方式で上記の学術会議を開催し、発表、討論を務めた。

②2022 東アジア平和国際学術会議「戦争暴力による賠償・補償およびトラウマの治癒」（2022年11月4日）

228 事件記念基金会（台湾）、全南大学校 518 研究所、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 附属東アジアメディア研究センターと本センターの4機関の主催でオンライン方式により上記の学術会議を開催し、発表、討論を務めた。

③2022 統一人文世界フォーラム「海外同胞の観点から見た南北当局の海外同胞法と居住国における法的地位に関する歴史、現況、そして課題」（2022年12月3日）

建国大学統一人文学研究団、中国海洋大学韓国研究所、朝鮮大学校朝鮮問題研究センターと本研究センターの4機関の共同開催（主管：建国大学校）により、オンライン方式で上記の学術シンポジウムを開催し、発表、討論を務めた。

④日韓学術会議「日韓関係の改善をめぐる日韓両政府の課題」（2022年12月16日）

東アジア平和協力研究センター主催、本センター共催により立命館大学で上記学術会議を開催した。

(2) RiCKs 月例研究会

RiCKs 月例研究会は前センター発足時からセンターの核心的な事業として取り組んできた企画であり、主として、博士学位取得前後の新進気鋭の若手研究者や関西地域に滞在中の海外研究者に発表を依頼してきた。2022年度は第120回から第124回までの5回を、すべてオンライン方式で開催した。

(3) その他の学術企画と研究会

吉澤文寿「日韓会談反対運動に関する日常史研究（1960～1965年）」（2020年9月26日）

崔正勳「北朝鮮の核兵器高度化による地政学的影響を考える」（2022年4月1日）

ジェフリー・ルイス「朝鮮半島核危機とウクライナ危機を比較検証する」（2022年5月21日）

中達啓示「ウクライナ侵攻と真珠湾攻撃への道を比較検証する」（2022年6月18日）

田中浩一郎「緩衝国家から見た国際関係—アフガニスタン・ウクライナ・南北コリア」（2022年7月22日）

アンキット・パンダ「新しい核保有国における核抑止と充足性：インド・パキスタン、北朝鮮からの教訓」ほか、多数の学術企画を共催、後援した。

2. 若手人材育成

すべての学術研究事業に若手研究者の積極的な参加を促し発表を奨励するとともに、研究基盤を提供した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目） ※ページ数の制限は無し

本欄には、2023年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）

役割	氏名	所属	職位
センター長	勝村 誠	政策科学部	教授
運営委員	庵途 由香	文学部	教授
	石川 亮太	経営学部	教授
	金丸 裕一	経済学部	教授
	金 友子	国際関係学部	准教授
	宋 基燦	映像学部	准教授
	高屋 和子	経済学部	教授
	鄭 雅英	経営学部	教授
	中戸 祐夫	国際関係学部	教授
	松本 克美	法務研究科	教授
	文 京洙	国際関係学部	特任教授
	総田 芳憲	立命館アジア太平洋大学	教授
	轟 博志	立命館アジア太平洋大学	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)			
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員		
	補助研究員・リサーチアシスタント		
	大学院生		
	学振特別研究員 (PD・RPD)		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	宋 隠宮	文学部	非常勤講師
	森 類臣	文学部	授業担当講師
	宋 基栄	国際関係学部	授業担当講師
	三上 聡太	文学部	授業担当講師
	張 恵英	言語教育センター	非常勤講師
	塚崎 昌之	文学部	授業担当講師
	橋本 妹里	文学部	授業担当講師
客員協力研究員	林 茂澤	—	—
	徐 潤雅	駐大阪韓国文化院世宗学堂	非常勤講師
	高 賛侑	ライフ映像ワーク	代表

	吉川 絢子	佛教大学歴史学部	非常勤講師
	尹 健次	—	—
	金 東僖	高麗大学	研究教授
	波佐場 清	—	—
	沈 熙燦	延世大学（韓国）近代韓国研究所	教授
	戸塚 悦郎	—	弁護士
	梁 仁實	岩手大学人文社会科学部	准教授
	青柳 純一	金起林記念会	共同代表
	申 東洙	京都市立日吉ヶ丘高等学校	非常勤講師
	川瀬 俊治	—	—
	宇都宮 めぐみ	—	—
	李 裕淑	同志社大学	非常勤講師
	坂本 悠一	—	—
	関 スラ	大阪外国語専門学校	非常勤研究員
	高 恩美	東亜大学校 石堂学術院	特別研究員
	生駒 智一	—	—
	徐 勝	又石大学校	碩座教授
	金 泰勲	—	—
	金 東僖	高麗大学民族文化研究院	研究教授
	曹 昇美	韓国放送通信大学大学院	チューター
	生駒 智一	—	—
	宋 基栄	立命館大学	授業担当講師（朝鮮語）
	塚崎 昌之	—	—
	橋本 妹里	—	—
	三上 聡太	—	—
	森 類臣	摂南大学国際学部国際学科	特任准教授
	崔 瓊元	—	—
	高野 昭雄	大阪大谷大学 教育学部 教育学科	教授
	SONG EUNYOUNG	—	—
	坂本 知壽子	延世大学校 社会発展研究所 大阪市立大学 都市・研究プラザ	専門研究員 特別研究員
	松本 智也	立命館大学文学部	授業担当講師
	金 賢娥	—	—
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員	計 55 名	(うち学内の若手研究者 計 0 名)	

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published, の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2023年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	金友子	被害と加害のフェミニズム	共訳	2023年1月	解放出版社	クオンキム・ヒョンヨン編著、影本剛／ハン・ディディ監訳 担当範囲：第4章 被害者誘発論とグイ／トランスパニック防御（ルイン著）	pp. 167-209
2	庵途由香	精選日本史探求 教授用指導書	共著	2023年1月	実教出版		多数箇所
3	文京洙	비관적 4·3 연구 (批判的 四・三研究)	共著	2023年3月	한그루	編者：高誠晩、その他の著者6名	pp. 51-78
4	石川亮太	アジアにおける関西経済の発展：関西経済と近代アジア経済との密接な関係の歴史	共著	2023年3月	関西大学経済・政治研究所	執筆部分「近代大阪の朝鮮米流通：商人と同業団体を中心に」	pp. 71-102
5	石川亮太	近代アジアの動態：19世紀（岩波講座世界歴史17）	共著	2022年7月	岩波書店	執筆部分「朝鮮の経済と社会変動：財政と市場、商人に注目して」	pp. 123-149
6	中戸祐夫	北朝鮮の対外関係	共著	2022年12月	晃洋書房	森頼臣、金泰敬他7名	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	金友子	比較から近接地帯へ——専有された労働と非／人間動物の逃亡	単訳	2022年6月	動物のまなざしのもとで——種と文化の境界を問い直す（勁草書房）	申知暎の原著論文の日本語訳 鶴飼哲編著	pp. 145-178	無
2	金丸裕一	「賀川豊彦の第一回中国訪問について—1920年夏の〈原体験〉を思考する」	単著	2022年8月	賀川豊彦学会『賀川豊彦学会論叢』（29）		pp. 1-35	
3	金丸裕一	「賀川豊彦研究雑誌六種総目次（1980～2022）」	共著	2022年9月	立命館大学経済学会、『立命館経済学』第71第2・3	寺田百花・秋田裕加	pp. 145-192	
4	文京洙	漂流する韓国政治——檢察国家の行方	単著	2023年1月	『アジア・アフリカ研究』63巻1号 アジア・アフリカ研究所		pp. 53-63	なし
5	文京洙	1948 일본행 엑소더스——연합국 최고사령부 보고서를 통해 본 제주 사람들의 밀항	共著	2022年12月	『日本學』58 東國大学	共著者 高誠晩	pp. 61-81	あり
6	鄭雅英	中国朝鮮族の1960年代—文化大革命へのプロセスと少数民族の試練	単著	2023年3月	大阪市立（公立）大学、『経済学雑誌』第123巻、2号		pp. 81-102	

7	轟博志	新羅における幹線駅路のミクロスケールの復原試論	単著	2022年5月	北東アジア学会『北東アジア地域研究』28号		49-64頁	あり
8	宋基燦	「배반하는 역사 속에 피어난 사람의 역사」	単著	2022年5月	국립통일교육원 『평화와 통일』(1)		pp. 163-172	
9	勝村誠	ウトロ平和祈念館の展示を通して居住権について考える	単著	2023年3月	『立命館経営学』61巻6号		pp. 1667-183	なし
10	勝村誠	一国史を越える政治外交史の模索—退職にあたっての所感	単著	2023年3月	『政策科学』30巻3号		pp. 3-15	なし
11	勝村誠	1920年の間島朝鮮人ジェノサイドに動員された韓人警察	単訳	2023年3月	『政策科学』30巻3号	金周溶の韓国語論文の翻訳	pp. 83-105	なし
12	勝村誠	3・1独立宣言書の国外への伝播者 V.S. マクラッチー	単訳	2023年3月	『政策科学』30巻3号	金度亨の韓国語論文の翻訳	pp. 107-124	なし
13	勝村誠	大韓帝国期の慶南・釜山地域における夜学運動の性格	単訳	2023年3月	『政策科学』30巻3号	金炯睦の韓国語論文の翻訳	pp. 127-142	なし
14	勝村誠	5・18民主化運動と在日同胞社会の対応	単訳	2023年3月	『政策科学』30巻3号	崔晶基の韓国語論文の翻訳	pp. 161-178	なし
15	勝村誠	安重根のロシア沿海州における義兵闘争	単訳	2023年3月	『政策科学』30巻3号	朴敏泳の韓国語論文の翻訳	pp. 273-283	なし
16	石川亮太	1960～70年代の大阪における在日コリアン印刷業：僑文社・ケイビーエス株式会社の歩みから(1)	単著	2022年7月	『立命館経営学』61巻2号		pp. 57-97	なし
17	石川亮太	ハン글専門印刷から多言語印刷・翻訳業への展開：僑文社・ケイビーエス株式会社の歩みから(2)	単著	2022年11月	『立命館経営学』61巻4号		pp. 143-200	なし
18	石川亮太	ソウルと大阪の狭間で：戦中・終戦・朝鮮戦争を生き抜いた半生を語る	編	2023年3月	『政策科学』30巻3号	高仁鳳の講演記録	pp. 17-43	なし
19	総田芳憲	岐路に立つに本の安全保障：日本が直面する脅威の再検討	単著	2023年3月	『政策科学』30巻3号		pp. 45-65	なし
20	金友子	立命館大学「チョン語」問題	単著	2023年3月	『政策科学』30巻3号		pp. 67-81	なし
21	鄭雅英	越境するナショナルアイデンティティ：中国朝鮮族の1950年代	単著	2023年3月	『政策科学』30巻3号		pp. 195-213	なし
22	轟博志	山経表の系譜についての一考察	単著	2023年3月	『政策科学』30巻3号		pp. 215-231	なし

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	金友子	Experiences of the Zainichi Women: The Human Rights Situation of Ethnic Korean Residents Living in Japan	2022年4月	2022 Online Social Justice Symposium (Antioch University Seattle)	Lee Wolsoon, Uemura Hideaki
2	金友子	60년대 한일협정 전후 한국국적/조선적을 둘러싼 논란과 현재	2022年12月	2022 통일인문학세계 포럼 “해외동포들의 관점에서 본 남	

				북 당국의 해외동포 법과 거주국에서의 법적 지위에 관한 역사와 현황, 그리고 과제” (朝鮮大学校) ンポジウム	
3	金友子	在日コリアン 2 世の民族・学生運動の軌跡：「在日韓国学生同盟」小史	2023 年 2 月	朝鮮族研究学会・北東アジア学会 (関西地域研究会) 合同研究会、谷岡学園サテライト、大阪市	鄭雅英
4	総田芳憲	冷戦後の日朝関係と日本の安全保障政策	2022 年 5 月	東アジア学会 30 周年記念大会	
5	総田芳憲	日本は抑止力を強化すべきなのか	2023 年 2 月	東アジア学会第 94 回定例研究会	
6	石川亮太	近代日韓関係と海藻貿易	2022 年 8 月	2022 韓日海女フォーラム (東義大学校韓日海女研究所、韓国釜山)	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	日中韓 3 大学シンポジウム	オンライン	2022 年 11 月		東國大学校北韓学研究所、吉林大学東北アジア研究院
2	東アジア平和学術会議	オンライン	2022 年 12 月		建国大学統一人文学研究団、中国海洋大学韓国研究所、朝鮮大学校朝鮮問題研究センター
3	日韓学術会議	衣笠キャンパス	2022 年 12 月		東アジア平和協力研究センター主催、本センター共催
4	統一人文学世界フォーラム	衣笠キャンパス	2022 年 12 月		建国大学統一人文学研究団、中国海洋大学韓国研究所、朝鮮大学校朝鮮問題研究センター
5	第 120 回 Ricks 月例研究会	オンライン	2022 年 5 月		
6	第 121 回 Ricks 月例研究会	オンライン	2022 年 6 月		
7	第 122 回 Ricks 月例研究会	オンライン	2022 年 7 月		
8	第 123 回 Ricks 月例研究会	オンライン	2022 年 12 月		
9	AJI 連続ウェビナー第 1 回	オンライン	2022 年		
10	AJI 連続ウェビナー第 2 回	オンライン	2022 年		
11	AJI 連続ウェビナー第 3 回	オンライン	2022 年 6 月		
12	AJI 連続ウェビナー第 4 回	オンライン	2022 年 7 月		
13	AJI 連続ウェビナー第 5 回	オンライン	2022 年 12 月		

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	文京洙	時論 「재일 제주인의 4·3 피해 실태조사를 (在日済州人の被害実態調査を)	『済州新報』(2022 年 4 月 4 日)	
2	文京洙	【座談会】「再び在日について考える」	在日本法律家協会会報『エトランデュテ』第 4 号 (2022 年 9 月 5 日)	
3	文京洙	時論 : 오사카코리아타운 역사자료관 (大阪コリアタウン 歴史資料館)	『済州新報』(2022 年 12 月 20 日)	

4	金友子	マイクロアグレッションを考える ～日常のなかの無自覚な差別～	大阪府人権総合講座（後期・人権問題科目群）（大阪府大阪市（オンライン））	2022年2月
5	金友子	人種、民族、国籍、性別、性的指向・性自認、障害等に関わる弁護士が備えるべき視点としての「マイクロアグレッション」	大阪弁護士会研修会（大阪弁護士会館（大阪府大阪市））	2022年6月
6	金友子	『マイクロアグレッション』～日常生活に埋め込まれた無自覚の差別～	大阪府立信太高等学校 教職員研修（大阪府和泉市）ダイバーシティイニシアティブ（先端型）2020-2025）（オンライン）	2022年7月
7	金友子	マイクロアグレッション：日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	第3回 Creating Futures プログラムセミナー「ダイバーシティ」を見つめなおす（（文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティイニシアティブ（先端型）2020-2025）（オンライン））	2022年9月
8	金友子	私にもある無意識の偏見や差別「マイクロアグレッション」を考える	第2回 フェミニズムとジェンダー学習会（日本（オンライン））	2022年11月
9	金友子	マイクロアグレッションー日常に潜む見えない差別ー	「多文化共生パートナー育成講座 with DIVERSITY～知る、つながる、共に暮らす～」第1回 、名古屋NGOセンター、東海市民社会ネットワーク、独立行政法人国際協力機構中部センター（JICA 中部、JICA 中部なごや地球ひろば セミナールーム）	2022年12月
10	金友子	マイクロアグレッション：日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会 2023、オンライン	2023年2月
11	文京洙	『在日』を考える：20世紀の在日朝鮮人問題の形成・展開と最新の研究成果	立命館大学 AJI インターディシプリナリー・セミナー	2022年6月
12	文京洙	「解放後在日コリアンの歩みと現状」(webinar)	和気山統国寺 TOMOE 講座第5回	2022年8月

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	金友子	離散民の祖国志向の歴史・社会的構築性に関する研究	科研費基盤研究（C）	2018年	2023年	代表
2	鄭雅英	在外コリアン学生の1960年代ーグローバルヒストリーの観点から	科研費基盤研究（C）	2020年	2023年	代表

3	金丸裕一	20世紀東アジア・キリスト教史における他者像形成の動態	科研費基盤研究 (C)	2022年	2024年	代表
4	張惠英	東アジアにおける特攻認識と戦争の記憶・断絶に関する国際比較研究	科研費基盤研究 (C)	2021年	2023年	分担

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	勝村誠	海外独立運動史跡地調査点検	大韓民国独立記念館	2014年5月	2027年	代表
2	金丸裕一	20世紀東アジア・キリスト教における他者認識の研究	JFE21世紀財団アジア歴史研究助成	2022年	2024年	代表

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本